

表 4-10 高齢者タイプ1の高齢者に発生したケア（発生率降順上位 20 位）

No			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率(%)
1	TCC_080	食事の準備	2.5	1.0	1.6	5.3	11	100
2	TCC_141	日常会話、声かけ	22.8	13.4	6.2	49.5	11	100
3	TCC_142	ニード、訴えを知る	16.2	10.2	1.7	33.4	11	100
4	TCC_136	脳・神経系の観察・測定	3.8	3.4	0.6	11.0	10	90.9
5	TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	4.5	5.7	0.3	17.8	9	81.8
6	TCC_337	歩行訓練:口頭指示、見守り	12.4	18.2	0.3	57.0	9	81.8
7	TCC_092	飲み物の用意	2.4	1.9	0.3	5.4	7	63.6
8	TCC_152	寝具を整える	1.2	1.0	0.1	2.7	7	63.6
9	TCC_202	薬を患者に配布	2.2	1.8	0.8	5.7	7	63.6
10	TCC_305	筋力増強訓練	5.1	3.6	0.7	12.0	7	63.6
11	TCC_310	動作訓練の内容や手順の説明	2.7	1.5	0.3	4.3	7	63.6
12	TCC_338	歩行訓練:部分介助	12.3	11.8	3.0	32.4	7	63.6
13	TCC_366	訓練用具等準備・かたづけ	1.9	2.1	0.3	6.3	7	63.6
14	TCC_050	更衣動作の見守り、指示	3.1	2.5	0.3	7.2	6	54.5
15	TCC_051	更衣動作の一部介助	8.3	10.3	0.2	24.8	6	54.5
16	TCC_105	起居の援助	3.8	5.0	0.1	12.2	6	54.5
17	TCC_117	歩行の見守り	13.7	6.3	3.3	22.3	6	54.5
18	TCC_177	その他の見守り	28.1	58.8	0.3	147.8	6	54.5
19	TCC_304	関節可動域訓練	14.7	11.3	2.0	31.5	6	54.5
20	TCC_001	洗面所までの誘導	0.4	0.3	0.1	0.8	5	45.5

## ② 高齢者タイプ2に発生していたケア

高齢者タイプ2では、「食事の準備」、「脳・神経系の観察・測定」、「ニード、訴えを知る」「薬を患者に配布」は、100%ですべての高齢者に発生していた。また、「更衣動作の全介助」95.2%、「飲み物の用意」95.2%、「起居の援助」95.2%、「(夜間)巡視、容態観察」95.2%、「日常会話、声かけ」95.2%、「更衣動作の一部介助」90.5%、「車椅子から、ベッドへ」90.5%、「車椅子による移動の介助」90.5%と9割以上を示しており、ほとんどの高齢者に発生していた。

さらに、「排尿時の見守り」85.7%、「食事の後始末、配茶後の後始末」85.7%、「ベッドから、車椅子へ」85.7%、「寝具を整える」85.7%、「採光・防音調整」85.7%、「衣服を整える」81.0%、「関節可動域訓練」81.0%、「歩行訓練：部分介助」76.2%、「発声・発語器官の運動」76.2%、「洗面所までの誘導」71.4%、「車椅子から便器便座への移乗介助」71.4%、「おむつ除去、装着」71.4%は、7割以上の高齢者に発生していた。

続いて、「口腔清潔（歯みがき等）」66.7%、「必要物品準備」66.7%、「便器便座から車椅子への移乗介助」66.7%、「排尿後の後始末」66.7%、「動作訓練の内容や手順の説明」66.7%、「立ち上がり訓練：部分介助」61.9%、「洗面動作の指示」57.1%、「衣服等の準備（靴下、靴含む）」57.1%、「移乗訓練：部分介助」57.1%、「洗面一部介助」52.4%、

「更衣動作の見守り、指示」52.4 %、「食事中の見守り」52.4 %、「車椅子の操作、準備等」52.4 %、「車椅子による移動の見守り」52.4 %、「患者自身への教育・心理的支援」52.4 %、「筋力増強訓練」52.4%、歩行訓練：口頭指示、見守り」52.4%と 41 種類のケアが 5 割以上の発生していた。

高齢者タイプ 1 において 5 割以上を示したケアは 19 種類であったことから、高齢者タイプ 2 のほうが、高齢者に共通して発生していたケアの種類が多いことがわかった。

発生率が 40%以上のケアを追加すると、「排尿動作援助」47.6 %、「おむつの点検」47.6 %、「食事部分介助」47.6 %、「体位変換一部介助」47.6 %、「ナースコールの受理応答」47.6 %、「座位訓練：部分介助」47.6 %、「マッサージ」47.6 %、「訓練用具等準備・かたづけ」47.6 %、「必要物品準備」42.9 %、「うがい」42.9 %、「使用物品の後始末」42.9 %、「おむつ交換の必要物品準備」42.9 %、「おむつの後始末」42.9 %、「体位変換全介助」42.9 %、「歩行の見守り」42.9 %、「その他の問題行動への対応」42.9%、「患者からのコール等による移動」42.9%、「病室内の掃除」42.9%、「その他の見守り」42.9 %、「褥創、外科創等の処置等」42.9 %が追加される。

また、発生率が 30%のケアをさらに追加すると、「髭剃り等の準備、後始末」38.1 %、「洗身一部介助」38.1 %、「排泄動作訓練」38.1 %、「更衣動作訓練」38.1 %、「部分清拭」33.3 %、「結髪・整髪（準備・後始末含む）」33.3 %、「排尿頻度、量、間隔のチェック」33.3 %、「おやつの準備」33.3 %、「飲み物摂取介助」33.3 %、「椅子等から車椅子への移乗介助」33.3 %、「ベッド柵つけはずし」33.3 %、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」33.3 %、「起き上がり訓練：口頭指示見守り」33.3 %、「立ち上がり訓練：口頭指示見守り」33.3 %、と 30%以上のケアであった。

高齢者タイプ 2 では、110 種類のケアが 20%以上の発生率を示しており、高齢者タイプ 1 のほぼ 2 倍となっていた。

表 4-11 高齢者タイプ 2 の高齢者に発生したケア（発生率降順上位 20 位）

No			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率 (%)
1	TCC_080	食事の準備	3.9	2.8	1.2	11.3	21	100
2	TCC_136	脳・神経系の観察・測定	7.4	7.3	0.5	28.7	21	100
3	TCC_142	ニード、訴えを知る	17.6	15.0	0.7	61.6	21	100
4	TCC_202	薬を患者に配布	2.4	2.1	0.3	7.7	21	100
5	TCC_052	更衣動作の全介助	10.4	10.2	0.3	39.8	20	95.2
6	TCC_092	飲み物の用意	2.9	2.8	0.3	10.3	20	95.2
7	TCC_105	起居の援助	3.7	3.0	0.5	9.7	20	95.2
8	TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	5.8	8.9	1.0	41.0	20	95.2
9	TCC_141	日常会話、声かけ	28.7	30.4	0.3	111.5	20	95.2
10	TCC_051	更衣動作の一部介助	9.5	7.8	1.1	28.4	19	90.5
11	TCC_109	車椅子から、ベッドへ	3.4	2.3	0.3	7.5	19	90.5
12	TCC_120	車椅子による移動の介助	24.4	13.9	0.3	45.7	19	90.5
13	TCC_059	排尿時の見守り	6.8	8.7	0.2	37.3	18	85.7

14	TCC_085	食事の後始末、配茶後の後始末	1.2	0.8	0.2	2.3	18	85.7
15	TCC_108	ベッドから、車椅子へ	3.5	2.7	0.3	9.7	18	85.7
16	TCC_152	寝具を整える	1.9	2.0	0.3	8.8	18	85.7
17	TCC_162	採光・防音調整	1.4	0.9	0.2	3.2	18	85.7
18	TCC_053	衣服を整える	1.9	3.2	0.2	13.7	17	81.0
19	TCC_304	関節可動域訓練	10.2	7.7	3.7	33.3	17	81.0
20	TCC_338	歩行訓練：部分介助	13.6	12.6	0.3	42.2	16	76.2

### ③ 高齢者タイプ3に発生していたケア

高齢者タイプ3では、「更衣動作の全介助」「日常会話、声かけ」「薬を患者に配布」は、100%発生していた。

「口腔清潔（歯みがき等）」90.9%、「衣服を整える」90.9%、「起居の援助」90.9%、「ベッドから、車椅子へ」90.9%、「車椅子から、ベッドへ」90.9%、「車椅子による移動の介助」90.9%、「(夜間)巡視、容態観察」90.9%、「脳・神経系の観察・測定」90.9%、「ニード、訴えを知る」90.9%、「寝具を整える」90.9%、「採光・防音調整」90.9%、「部分清拭」81.8%、「更衣動作の一部介助」81.8%、「おむつ除去、装着」81.8%、「食事の準備」81.8%、「飲み物の用意」81.8%、「飲み物摂取介助」81.8%、「体位変換全介助」81.8%、「関節可動域訓練」81.8%と80%以上に発生していた介護内容は、22種類だった。

70%以上の発生率を示したケアは、「使用物品の後始末」72.7%、「食事の後始末、配茶後の後始末」72.7%、「体位変換一部介助」72.7%、「褥創防止具使用等」72.7%、「ギャッチベッドの操作」72.7%、「車椅子の操作、準備等」72.7%であった。

60%以上としては、「必要物品準備」63.6%、「おむつの点検」63.6%、「おむつの後始末」63.6%、「食事中の見守り」63.6%、「褥創、外科創等の処置等」63.6%、「動作訓練の内容や手順の説明」63.6%、「座位訓練：部分介助」63.6%であった。

50%以上のケア内容を追加すると、「必要物品準備」54.5%、「うがい」54.5%、「口唇の乾燥を防ぐ」54.5%、「衣服等の準備（靴下、靴含む）」54.5%、「車椅子から便器便座への移乗介助」54.5%、「おむつ交換の必要物品準備」54.5%、「ナースコールの受理応答」54.5%、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」54.5%、「その他の見守り」54.5%、「移乗訓練：かなり介助して」54.5%と続き、発生した205のケアのうち45のケアが50%以上の高齢者に発生していた。

このように高い割合で発生していたケアは、主に日常生活動作能力の援助が多かったが、移乗、体位変換や、ギャッチベッドの操作など起居の援助が多かった。

発生率が40%以上を追加すると、「洗面所までの誘導」45.5%、「洗面全介助」45.5%、「入れ歯の手入れ」45.5%、「手指浴・足浴」45.5%、「髭剃り等の準備、後始末」45.5%、「洗身全介助」45.5%、「便器便座から車椅子への移乗介助」45.5%、「排尿動作援助」45.5%、「排尿時の見守り」45.5%、「排尿後の後始末」45.5%、「排尿時必要物品準備」45.5%、「食べ物を食べさせる」45.5%、「ベッド柵つけはずし」45.5%、「起き上がり訓練：かなり介して」

45.5%、「座位訓練：かなり介助して」45.5%、「立ち上がり訓練：かなり介助して」45.5%、「マッサージ」45.5%、「発声・発語器官の運動」45.5%、「訓練用具等準備・かたづけ」45.5%が追加された。

発生率が20%以上では、「洗面一部介助」36.4%、「必要物品準備」36.4%、「洗髪全介助」36.4%、「結髪・整髪（準備・後始末含む）」36.4%、「洗身一部介助」36.4%、「食事部分介助」36.4%、「えんげ困難の援助」36.4%、「車椅子から、床・マットへ」36.4%、「床・マットから、車椅子へ」36.4%、「マッサージ、さする」36.4%、「床頭台を整頓」36.4%、「病室内の掃除」36.4%、「処方箋と処方薬の照合」36.4%、「吸引の実施・準備・後始末」36.4%、「温・冷あん法の準備、後始末等」36.4%、「座位訓練：口頭指示、見守り」36.4%、「立位訓練：かなり介助して」36.4%、「バランス訓練：かなり介助して」36.4%、「車いす操作：かなり介助して」36.4%、「耐久性の評価、作業能力評価」36.4%、「カーデクス、看護記録等」36.4%、「洗面動作の指示」27.3%、使用物品の後始末27.3%、陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)27.3%、「浴室準備、シャワー椅子の準備」27.3%、「浴槽、リフトへの誘導」27.3%、「リフトの操作、移動の介助」27.3%、「食間食の食べ物を食べさせる」27.3%、「経口栄養の準備」27.3%、「起坐練習の援助」27.3%、「患者からのコール等による移動」27.3%、「タッピング、体位排痰の実施等」27.3%、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」27.3%、「寝返り訓練：かなり介助して」27.3%、「起き上がり訓練：部分介助」27.3%、「立ち上がり訓練：部分介助」27.3%、「立位訓練：部分介助」27.3%、「移乗訓練：部分介助」27.3%、「装具装着訓練：介助しながら」27.3%、「移乗動作訓練」27.3%、「注射伝票、消毒薬等の注文等」27.3%であった。

20%以上の発生率のケア内容としては、日常生活動作能力への援助だけでなく、「吸引の実施・準備・後始末」、「酸素吸入の準備・実施・後始末」、「点滴、中心静脈栄養の準備等」といった医療・看護的なケアも発生していた。

高齢者タイプ3では、105種類のケアが20%以上の発生率を示していた。

表 4-12 高齢者タイプ3の高齢者に発生したケア（発生率降順上位20位）

No			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率(%)
1	TCC_052	更衣動作の全介助	10.6	8.1	0.9	25.7	11	100
2	TCC_141	日常会話、声かけ	49.6	60.2	0.7	177.8	11	100
3	TCC_202	薬を患者に配布	2.3	1.4	0.2	4.6	11	100
4	TCC_007	口腔清潔(歯みがき等)	4.0	3.6	0.3	12.0	10	90.9
5	TCC_053	衣服を整える	0.9	1.0	0.1	2.9	10	90.9
6	TCC_105	起居の援助	4.7	3.1	1.7	11.4	10	90.9
7	TCC_108	ベッドから、車椅子へ	3.9	3.2	0.8	10.2	10	90.9
8	TCC_109	車椅子から、ベッドへ	4.4	3.5	0.9	9.5	10	90.9
9	TCC_120	車椅子による移動の介助	25.9	8.2	16.6	42.9	10	90.9
10	TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	2.0	1.1	0.7	4.4	10	90.9

11	TCC_136	脳・神経系の観察・測定	9.1	13.2	1.7	45.4	10	90.9
12	TCC_142	ニード、訴えを知る	13.0	14.7	0.8	50.1	10	90.9
13	TCC_152	寝具を整える	2.8	2.3	0.7	8.1	10	90.9
14	TCC_162	採光・防音調整	1.1	1.5	0.2	5.0	10	90.9
15	TCC_013	部分清拭	1.0	0.4	0.3	1.6	9	81.8
16	TCC_051	更衣動作の一部介助	4.0	3.2	0.1	8.5	9	81.8
17	TCC_076	おむつ除去、装着	14.5	16.3	0.6	54.3	9	81.8
18	TCC_080	食事の準備	2.5	2.1	0.9	7.7	9	81.8
19	TCC_092	飲み物の用意	1.5	1.5	0.3	3.5	9	81.8
20	TCC_093	飲み物摂取介助	3.5	3.2	0.3	9.8	9	81.8

#### ④ 高齢者タイプ4に発生していたケア

高齢者タイプ4では、「更衣動作の全介助」、「おむつ除去、装着」、「おむつの点検」、「脳・神経系の観察・測定」、「日常会話、声かけ」、「寝具を整える」は100%発生していた。

次に、「口腔清潔（歯みがき等）」93.3%、「（夜間）巡視、容態観察」93.3%と90%以上の発生率のケアが8種類示された、

80%以上の発生率のケアは、「衣服を整える」86.7%、「経管栄養の実施」86.7%、「経管栄養の後始末」86.7%、「体位変換全介助」86.7%、「起居の援助」86.7%、「ニード、訴えを知る」86.7%、「関節可動域訓練」86.7%、「必要物品準備」80.0%、「車椅子から、ベッドへ」80.0%、「車椅子による移動の介助」80.0%、「薬を患者に配布」80.0%、「嚥下訓練」80.0%と移乗、起居動作などに関連するケアが示された。

50%以上のケアは、「ベッドから、車椅子へ」73.3%、「病室内の掃除」73.3%、「褥創、外科創等の処置等」73.3%、「更衣動作の一部介助」66.7%、「褥創防止具使用等」66.7%、「ギャッチベッドの操作」66.7%、「ベッド柵つけはずし」66.7%、「採光・防音調整」66.7%、「発声・発語器官の運動」66.7%、「口唇の乾燥を防ぐ」60.0%、「部分清拭」60.0%、「衣服等の準備（靴下、靴含む）」60.0%、「おむつ交換の必要物品準備」60.0%、「経管栄養（経鼻、胃瘻）の準備」60.0%、「体位変換一部介助」60.0%、「職員間の連絡」60.0%、「使用物品の後始末」53.3%、「おむつの後始末」53.3%、「吸引の実施・準備・後始末」53.3%、「座位訓練：かなり介助して」53.3%と続き、発生した217のケアのうち40ケアが50%以上発生していたケアであった。

20%以上のケアは、「洗面全介助」46.7%、「髭剃り等の準備、後始末」46.7%、「車椅子の操作、準備等」46.7%、「寝具、リネン交換」46.7%、「吸入療法・ネブライザー準備等」46.7%、「タッピング、体位排痰の実施等」46.7%、「動作訓練の内容や手順の説明」46.7%、「立ち上がり訓練：かなり介助して」46.7%、「立位訓練：かなり介助して」46.7%、「移乗訓練：かなり介助して」46.7%、「訓練用具等準備・かたづけ」46.7%、「手指浴・足浴」40.0%、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」40.0%、「便器便座から車椅子への移乗介助」40.0%、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」40.0%、「床頭台を整頓」40.0%、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」40.0%、「起き上がり訓練：かなり介助して」40.0%、「整容

動作訓練」40.0 %、「マッサージ」40.0 %、「洗面所までの誘導」33.3 %、「洗髪全介助」33.3 %、「洗身一部介助」33.3 %、「車椅子から便器便座への移乗介助」33.3 %、「食事の準備」33.3 %、「その他の見守り」33.3 %、「点眼液・眼用軟膏の処置」33.3 %、「筋力増強訓練」33.3 %、「起き上がり訓練：部分介助」33.3 %、「うがい」26.7 %、「必要物品準備」26.7 %、「洗身全介助」26.7 %、「食事の後始末、配茶後の後始末」26.7 %、「食間食の食べ物を食べさせる」26.7 %、「食間食の後始末等」26.7 %、「その他の問題行動への対応」26.7 %、「処方箋と処方薬の照合」26.7 %、「関節可動域・可動性の評価・検査」26.7 %、「車いす操作：かなり介助して」26.7 %、「排泄動作訓練」26.7 %、「家族への連絡・応対等」26.7 %、「洗面動作の指示」20.0 %、「必要物品準備」20.0 %、「結髪・整髪（準備・後始末含む）」20.0 %、「耳掃除の準備、後始末」20.0 %、「排尿動作援助」20.0 %、「排尿後の後始末」20.0 %、「排便時の見守り」20.0 %、「排便後の始末」20.0 %、「食事中的見守り」20.0 %、「えんげ困難の援助」20.0 %、「飲み物の用意」20.0 %、「飲み物摂取介助」20.0 %、「ストレッチャーによる移動」20.0 %、「起坐練習の援助」20.0 %、「マッサージ、さする」20.0 %、「患者自身への教育・心理的支援」20.0 %、「寝具、リネン物品準備」20.0 %、「物品をとってあげる」20.0 %、「衣服、日用品整理」20.0 %、「診察の介助・準備・後始末」20.0 %、「手洗い、消毒液の交換」20.0 %、「寝返り訓練：部分介助」20.0 %、「寝返り訓練：かなり介助して」20.0 %、「座位訓練：口頭指示、見守り」20.0 %、「座位訓練：部分介助」20.0 %、「立位訓練：部分介助」20.0 %、「バランス訓練：部分介助」20.0 %、「バランス訓練：かなり介助して」20.0 %、「車いす操作：口頭指示、見守り」20.0 %、「知的精神機能評価」20.0 %、「職員自身の移動」20.0 %と示された。

表 4-13 高齢者タイプ4の高齢者に発生したケア（発生率降順上位 20 位）

No			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率(%)
1	TCC_052	更衣動作の全介助	10.9	5.1	3.3	18.0	15	100
2	TCC_076	おむつ除去、装着	10.0	4.2	4.3	20.1	15	100
3	TCC_077	おむつの点検	2.5	1.9	0.2	6.9	15	100
4	TCC_136	脳・神経系の観察・測定	10.7	6.6	1.0	25.9	15	100
5	TCC_141	日常会話、声かけ	40.1	36.4	5.2	147.1	15	100
6	TCC_152	寝具を整える	2.7	2.0	0.7	7.9	15	100
7	TCC_007	口腔清潔(歯みがき等)	5.6	4.1	1.3	17.0	14	93.3
8	TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	3.9	4.1	0.2	15.3	14	93.3
9	TCC_053	衣服を整える	2.1	2.1	0.3	8.3	13	86.7
10	TCC_098	経管栄養の実施	76.3	103.8	3.2	274.4	13	86.7
11	TCC_099	経管栄養の後始末	1.6	1.6	0.3	6.3	13	86.7
12	TCC_101	体位変換全介助	7.6	5.4	0.5	16.2	13	86.7
13	TCC_105	起居の援助	2.1	2.1	0.1	6.5	13	86.7
14	TCC_142	二一ド、訴えを知る	12.2	10.6	1.6	41.1	13	86.7
15	TCC_304	関節可動域訓練	15.5	8.4	4.2	31.2	13	86.7

16	TCC_011	必要物品準備	0.8	0.9	0.1	3.2	12	80.0
17	TCC_109	車椅子から、ベッドへ	2.1	1.9	0.3	6.8	12	80.0
18	TCC_120	車椅子による移動の介助	24.6	14.1	10.6	51.5	12	80.0
19	TCC_202	薬を患者に配布	2.3	2.2	0.5	7.7	12	80.0
20	TCC_306	嚥下訓練	13.0	10.5	2.0	36.2	12	80.0

## (2) 高齢者タイプ別発生したケアにおける平均提供時間

### 1) 高齢者タイプ1に発生したケア

高齢者タイプ1で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ1では、「徘徊老人への対応、探索」56.4分と最も長く、次いで、「コミュニケーション、失語の評価」が35.3分であったが、これらのケアが発生した高齢者は、いずれも1人であった。

高齢者タイプ1の高齢者のうち比較的、多人数(5名以上)に発生したケアで10分以上の提供時間が示されたのは、「その他の見守り」28.1分、「日常会話、声かけ」22.8分、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」18.2分、「ニード、訴えを知る」16.2分、「関節可動域訓練」14.7分、「歩行の見守り」13.7分、「歩行訓練：口頭指示、見守り」12.4分、「歩行訓練：部分介助」12.3分だった。

また、「車椅子による移動の介助」31.3分、「作業療法的活動の補助」29.4分、「知的精神機能評価」28.8分、「発声・発語器官の運動」18.4分、「食事中的見守り」17.7分、「歩行訓練：かなり介助して」17.5分、「歩行の介助」15.9分、「革・竹等簡易作業等」15.2分、「ふとんをほす」14.3分、「家事動作訓練」13.3分、「装具の装着を介助する」11.5分、「車いす操作：口頭指示、見守り」11.0分、「整容動作訓練」10.2分、は、発生した高齢者は、5名未満であった。したがって、これらのケアについては、個人差がある平均時間であるものとして、考える必要がある。

表 4-14 高齢者タイプ1で発生していたケアのうち提供時間が長いケア  
(平均値降順上位 20)

No			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率(%)
1	TCC_130	徘徊老人への対応、探索	56.4		56.4	56.4	1	9.1
2	TCC_360	コミュニケーション、失語の評価	35.3		35.3	35.3	1	9.1
3	TCC_120	車椅子による移動の介助	31.3	16.8	13.0	46.5	4	36.4
4	TCC_126	作業療法的活動の補助	29.4	14.8	19.0	39.9	2	18.2
5	TCC_359	知的精神機能評価	28.8	26.7	12.0	68.5	4	36.4
6	TCC_177	その他の見守り	28.1	58.8	0.3	147.8	6	54.5
7	TCC_141	日常会話、声かけ	22.8	13.4	6.2	49.5	11	100
8	TCC_361	発声・発語器官の運動	18.4	15.0	7.8	29.0	2	18.2
9	TCC_307	上肢機能・手指巧緻性の訓練	18.2	15.4	4.2	44.5	5	45.5
10	TCC_081	食事中的見守り	17.7		17.7	17.7	1	9.1

11	TCC_339	歩行訓練:かなり介助して	17.5		17.5	17.5	1	9.1
12	TCC_142	ニード、訴えを知る	16.2	10.2	1.7	33.4	11	100
13	TCC_118	歩行の介助	15.9	19.1	2.2	37.7	3	27.3
14	TCC_364	革・竹等簡易作業等	15.2	17.5	2.8	27.6	2	18.2
15	TCC_304	関節可動域訓練	14.7	11.3	2.0	31.5	6	54.5
16	TCC_156	ふとんをほす	14.3		14.3	14.3	1	9.1
17	TCC_117	歩行の見守り	13.7	6.3	3.3	22.3	6	54.5
18	TCC_350	家事動作訓練	13.3		13.3	13.3	1	9.1
19	TCC_337	歩行訓練:口頭指示、見守り	12.4	18.2	0.3	57.0	9	81.8
20	TCC_338	歩行訓練:部分介助	12.3	11.8	3.0	32.4	7	63.6

## 2) 高齢者タイプ2に発生したケア

高齢者タイプ2で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ2では、「作業療法的活動の補助」37.0分、「ケース会議」35.3分、「日常会話、声かけ」28.7分、「歩行の介助」25.9分、「膀胱瘻留置カテーテルの交換」24.4分、「車椅子による移動の介助」24.4分、「日常生活動作の評価」22.8分、「食事動作訓練」22.3分、「発声・発語器官の運動」19.6分、「神経筋促通手技等」18.8分、「レクリエーション活動中の援助」18.2分、「ニード、訴えを知る」17.6分、「装具・治療器具等の選定等」15.5分、「耐久性の評価、作業能力評価」15.0分、「その他の見守り」14.7分、「説明・準備・実施・確認」14.5分、「体操介助」14.2分、「歩行訓練：部分介助」13.6分、「食事の見守り」12.4分、「筋力増強訓練」11.7分、「点滴・IVHの滴下の調整等」11.3分、「歩行訓練：口頭指示、見守り」11.1分、「訓練教材、スプリントの作成等」11.0分、「嚥下訓練」10.7分、「更衣動作の全介助」10.4分、「関節可動域訓練」10.2分が10分以上の平均値を示していたケアであった。

しかし、これらのうち、「ケース会議」、「膀胱瘻留置カテーテルの交換」、「日常生活動作の評価」、「神経筋促通手技等」、「装具・治療器具等の選定等」、「耐久性の評価、作業能力評価」、「説明・準備・実施・確認」、「点滴・IVHの滴下の調整等」、「訓練教材、スプリントの作成等」、「嚥下訓練」については、1名であった。

10分未満で、5分以上提供されていたのは、「更衣動作の一部介助」9.5分、「マッサージ」9.3分、「散歩」9.1分、「経管栄養の実施」9.0分、「事務的活動訓練等」9.0分、「バランス訓練：部分介助」8.9分、「革・竹等簡易作業等」8.0分、「更衣動作訓練」7.9分、「留置カテーテルの観察等」7.9分、「コミュニケーション、失語の評価」7.6分、「脳・神経系の観察・測定」7.4分、「基本動作のデモンストレーション」7.0分、「排尿時の見守り」6.8分、「暴力行為、暴言等への対応」6.7分、「歩行訓練：かなり介助して」6.5分、「立ち上がり訓練：かなり介助して」6.5分、「歩行訓練、立位訓練等の補助」6.0分、「(夜間)巡視、容態観察」5.8分、「患者自身への教育・心理的支援」5.4分、「マッサージ、さする」5.4分、「家族への連絡・応対等」5.4分、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」5.4分、「職員間の連絡」5.2分、「整容動作訓練」5.0分、「バランス訓練：かなり介助して」5.0分であった。

このうち、「経管栄養の実施」、「事務的活動訓練等」、「革・竹等簡易作業等」、「基本動作



のデモンストレーション」、「暴力行為、暴言等への対応」、「バランス訓練：かなり介助して」は、1人への提供であり、「コミュニケーション、失語の評価」、「家族への連絡・応対等」は、2人に提供していた時間であり、平均的な時間としては、さらに吟味が必要である。

表 4-15 高齢者タイプ2で発生していたケアのうち提供時間が長いケア  
(平均値降順上位 20 位)

no			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率(%)
1	TCC_126	作業療法的活動の補助	37.0	29.7	16.0	58.0	2	9.5
2	TCC_412	ケース会議	35.3	.	35.3	35.3	1	4.8
3	TCC_141	日常会話、声かけ	28.7	30.4	0.3	111.5	20	95.2
4	TCC_118	歩行の介助	25.9	18.1	5.2	45.0	6	28.6
5	TCC_229	膀胱瘻留置カテーテルの交換	24.4	.	24.4	24.4	1	4.8
6	TCC_120	車椅子による移動の介助	24.4	13.9	0.3	45.7	19	90.5
7	TCC_342	日常生活動作の評価	22.8	.	22.8	22.8	1	4.8
8	TCC_343	食事動作訓練	22.3	17.9	9.7	35.0	2	9.5
9	TCC_361	発声・発語器官の運動	19.6	12.7	1.7	46.0	16	76.2
10	TCC_358	神経筋促通手技等	18.8	.	18.8	18.8	1	4.8
11	TCC_402	レクリエーション活動中の援助	18.2	23.1	0.3	44.3	3	14.3
12	TCC_142	ニード、訴えを知る	17.6	15.0	0.7	61.6	21	100
13	TCC_368	装具・治療器具等の選定等	15.5	.	15.5	15.5	1	4.8
14	TCC_362	耐久性の評価、作業能力評価	15.0	.	15.0	15.0	1	4.8
15	TCC_177	その他の見守り	14.7	18.9	2.0	63.0	9	42.9
16	TCC_355	説明・準備・実施・確認	14.5	.	14.5	14.5	1	4.8
17	TCC_128	体操介助	14.2	15.8	3.0	25.3	2	9.5
18	TCC_338	歩行訓練：部分介助	13.6	12.6	0.3	42.2	16	76.2
19	TCC_081	食事中的見守り	12.4	19.6	0.2	65.7	11	52.4
20	TCC_305	筋力増強訓練	11.7	8.6	2.0	33.0	11	52.4

### 3) 高齢者タイプ3に発生したケア

高齢者タイプ3で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ3では、「日常会話、声かけ」が49.6分と最も長かった。

「その他の見守り」45.7分、「レクリエーション活動中の援助」38.0分、「車椅子による移動の介助」25.9分、「浴室内の監視」23.9分、「食事中的見守り」22.8分、「歩行訓練：部分介助」20.8分が20分以上のケアと示され、長時間投下されたケアとして示された。

ただし、このうち、「レクリエーション活動中の援助」、「浴室内の監視」、「歩行訓練：部分介助」は1名だけに発生していたケアであった。

10分以上、提供されていたケアは、「食間食の食べ物を食べさせる」16.1分、「吸引の実施・準備・後始末」15.8分、「バランス訓練：かなり介助して」15.7分、「浣腸の準備・実施・後始末」14.9分、「おむつ除去、装着」14.5分、「経管栄養の実施」13.7分、「革・竹

等簡易作業等」13.4分、「ニード、訴えを知る」13.0分、「食事動作訓練」13.0分、「筋力増強訓練」12.8分、「受動的遊び等指導・実施させる」12.7分、「マッサージ」10.9分、「更衣動作の全介助」10.6分、「発声・発語器官の運動」10.5分、「耐久性訓練」10.2分、が10分以上の平均値を示していたケアであった。

ただし、このうち、「浣腸の準備・実施・後始末」と「食事動作訓練」の訓練は1人だけ、「経管栄養の実施」、「革・竹等簡易作業等」、「筋力増強訓練」、「受動的遊び等指導・実施させる」、「耐久性訓練」は2人に発生していたケアであった。

高齢者タイプ3は、高齢者タイプ1や2と比較すると日常生活動作能力の援助や機能訓練だけでなく、医療や看護的なケアなど多様なケアが長く投下されていた。

表 4-16 高齢者タイプ3で発生していたケアのうち提供時間が長いケア

(平均値降順上位20位)

no			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率(%)
1	TCC_141	日常会話、声かけ	49.6	60.2	0.7	177.8	11	100
2	TCC_177	その他の見守り	45.7	36.7	0.1	86.6	6	54.5
3	TCC_402	レクリエーション活動中の援助	38.0		38.0	38.0	1	9.1
4	TCC_120	車椅子による移動の介助	25.9	8.2	16.6	42.9	10	90.9
5	TCC_046	浴室内の監視	23.9		23.9	23.9	1	9.1
6	TCC_081	食事中的見守り	22.8	23.1	1.0	59.3	7	63.6
7	TCC_338	歩行訓練・部分介助	20.8		20.8	20.8	1	9.1
8	TCC_088	食間食の食べ物を食べさせる	16.1	10.6	4.7	25.7	3	27.3
9	TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	15.8	14.4	2.7	34.6	4	36.4
10	TCC_330	バランス訓練:かなり介助して	15.7	26.5	0.2	55.3	4	36.4
11	TCC_070	浣腸の準備・実施・後始末	14.9		14.9	14.9	1	9.1
12	TCC_076	おむつ除去、装着	14.5	16.3	0.6	54.3	9	81.8
13	TCC_098	経管栄養の実施	13.7	10.4	6.3	21.1	2	18.2
14	TCC_364	革・竹等簡易作業等	13.4	4.7	10.1	16.7	2	18.2
15	TCC_142	ニード、訴えを知る	13.0	14.7	0.8	50.1	10	90.9
16	TCC_343	食事動作訓練	13.0		13.0	13.0	1	9.1
17	TCC_305	筋力増強訓練	12.8	2.4	11.1	14.5	2	18.2
18	TCC_363	受動的遊び等指導・実施させる	12.7	8.2	6.8	18.5	2	18.2
19	TCC_357	マッサージ	10.9	12.4	0.5	30.0	5	45.5
20	TCC_052	更衣動作の全介助	10.6	8.1	0.9	25.7	11	100

#### 4) 高齢者タイプ4に発生したケア

高齢者タイプ4で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ4では、「経管栄養の実施」が最も長く76.3分であった。

次に、「日常会話、声かけ」40.1分、「その他の見守り」36.4分、「食べ物を食べさせる」26.3分、「車椅子による移動の介助」24.6分、「吸引の実施・準備・後始末」22.6分、「食

事部分介助」21.1分、「吸入療法・ネブライザー準備等」21.0分と医療・看護的なケアへの投下時間が長くなっていた。

ただし、「食べ物を食べさせる」は1人のみ提供されており、「食事部分介助」も2人だけであった。

20分未満、10分以上投下されていたケアは、「歩行訓練：部分介助」16.4分、「関節可動域訓練」15.5分、「嚥下訓練」13.0分、「ニード、訴えを知る」12.2分、「コミュニケーション、失語の評価」11.1分、「関節可動域・可動性の評価・検査」11.1分、「更衣動作の全介助」10.9分、「発声・発語器官の運動」10.8分、「脳・神経系の観察・測定」10.7分、「えんげ困難の援助」10.0分、「おむつ除去、装着」10.0分、が投下されていた。

これらのケアのうち、「歩行訓練：部分介助」、「コミュニケーション、失語の評価」は1人だけに投下されていたケアであった。

高齢者タイプ3と4いずれのタイプも医療・看護的ケアや日常生活動作能力への支援、そして機能訓練と多様なケアが高齢者タイプ1や2よりも長時間投下されていた。

表 4-17 高齢者タイプ4で発生していたケアのうち提供時間が長いケア  
(平均値降順上位20位)

No			平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率 (%)
1	TCC_098	経管栄養の実施	76.3	103.8	3.2	274.4	13	86.7
2	TCC_141	日常会話、声かけ	40.1	36.4	5.2	147.1	15	100
3	TCC_177	その他の見守り	36.4	46.9	0.3	101.1	5	33.3
4	TCC_083	食べ物を食べさせる	26.3		26.3	26.3	1	6.7
5	TCC_120	車椅子による移動の介助	24.6	14.1	10.6	51.5	12	80.0
6	TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	22.6	13.3	3.8	38.7	8	53.3
7	TCC_082	食事部分介助	21.1	22.3	5.3	36.9	2	13.3
8	TCC_216	吸入療法・ネブライザー準備等	21.0	20.7	1.0	59.3	7	46.7
9	TCC_338	歩行訓練：部分介助	16.4		16.4	16.4	1	6.7
10	TCC_304	関節可動域訓練	15.5	8.4	4.2	31.2	13	86.7
11	TCC_306	嚥下訓練	13.0	10.5	2.0	36.2	12	80.0
12	TCC_142	ニード、訴えを知る	12.2	10.6	1.6	41.1	13	86.7
13	TCC_360	コミュニケーション、失語の評価	11.1		11.1	11.1	1	6.7
14	TCC_301	関節可動域・可動性の評価・検査	11.1	13.1	3.9	30.7	4	26.7
15	TCC_052	更衣動作の全介助	10.9	5.1	3.3	18.0	15	100
16	TCC_361	発声・発語器官の運動	10.8	9.6	1.7	25.8	10	66.7
17	TCC_136	脳・神経系の観察・測定	10.7	6.6	1.0	25.9	15	100
18	TCC_084	えんげ困難の援助	10.0	16.7	0.3	29.3	3	20.0
19	TCC_076	おむつ除去、装着	10.0	4.2	4.3	20.1	15	100
20	TCC_266	予防着、ガウンテクニックつける	9.3		9.3	9.3	1	6.7

## 第5章 在宅タイムスタディ対象高齢者の属性 - 第一次モデル事業認

### 定調査対象高齢者との比較より -

調査は、全国から抽出された 26 都道府県で実施され、調査対象者の選定にあたっては、一次判定結果における要介護度、および認知症高齢者自立度と日常生活自立度の組み合わせを参考に特定の状態像の高齢者群に偏らないよう配慮を依頼した。また、本調査の対象は、調査期間中に、入院や入所（ショートステイを含む）しない高齢者する予定がない高齢者とした。

このような条件のもとで在宅タイムスタディ調査の対象として抽出された高齢者がどのような特徴をもっていたのかを明らかにするために、要介護認定を受けた全国の在宅で生活している高齢者群との比較を行った。

比較に用いたデータは、平成 21 年度以降の要介護認定の円滑な導入に資することを目的として平成 20 年 12 月に行われた要介護認定モデル事業（第一次）のデータである。このモデル事業で収集されたデータは、各都道府県の推薦を得た 129 市町村における平成 19 年 12 月中に要介護認定及び要支援認定の申請を行った者 34,401 名分のデータであった。

分析に際して、これらのデータから認定調査時点において、在宅で介護を受けていた 27,605 名のデータを抽出した。この集団は、要介護認定データベースからランダムにサンプリングされていることから、わが国の要介護高齢者の標準的な状態を示しているものと考えられる。

これらの集団と本研究の在宅のタイムスタディ調査の対象となった高齢者群と比較を実施し、本研究の対象となった集団の特徴を示した。

#### 1. 性別

在宅タイムスタディ調査対象群は、男性が 36.5%、女性 63.5%であった。一方、モデル事業対象群は、男性 31.7%、女性 68.3%で在宅タイムスタディ調査対象群の方が男性の割合が有意に高かった。

表 5-1 調査対象者の性別

	在宅タイムスタディ		モデル事業		P 値
	N	%	N	%	
男性	180	36.5	8,757	31.7	*
女性	313	63.5	18,848	68.3	-
合計	493	100.0	27,605	100.0	

\*P<0.05

## 2. 年齢

### (1) 平均年齢

平均年齢は、在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群は、81.5歳（標準偏差 9.76）であった。最小は44歳、最大は100歳であった。一方、モデル事業の調査対象群は、平均78.8歳（標準偏差 8.05）であった。最小は55歳、最大は105歳であった。

在宅タイムスタディの調査対象者群の平均年齢は、モデル事業調査対象群よりも統計的に有意に高かった。

表 5-2 平均年齢

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	P 値
在宅タイムスタディ	81.5	9.76	44	100	485	**
モデル事業	78.8	8.05	55	105	27,605	

\*\*P<0.01

### (2) 年齢階層

年齢階層別には、モデル事業調査の対象となった高齢者群では80~84歳が26.9%と一番多く、次いで85~90歳が20.8%、75~79歳が20.3%であった。

一方、在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群は、90歳以上が22.7%と最も多く、次いで80~84歳が20.2%、75~79歳が18.6%であった。

これらの結果は、モデル事業では90歳以上が12.7%であり、平均年齢と同様に、在宅タイムスタディ調査の対象群は、90歳以上の超高齢者群の割合が顕著に高いことがわかった。

表 5-3 年齢階層別人数

	在宅タイムスタディ		モデル事業	
	N	%	N	%
40~64歳	26	5.4	955	3.5
65~69歳	28	5.8	1400	5.1
70~74歳	44	9.1	2973	10.8
75~79歳	90	18.6	5605	20.3
80~84歳	98	20.2	7436	26.9
85~90歳	89	18.4	5735	20.8
90歳~	110	22.7	3501	12.7
合計	485	100.0	27605	100.0

### 3. 要介護度

#### (1) 一次判定の分布

一次判定は、在宅タイムスタディ調査の対象群でデータが存在していたのは、224名であった。この集団の中では、要介護1が25.4%と一番高く、次いで要介護3が21.0%であった。

モデル事業で一番多かったのは、要介護1で45.5%、ついで経過的要介護が22.0%であった。モデル事業において、要介護5は2.8%で、在宅タイムスタディ調査の対象群は21.0%であることから、在宅のタイムスタディ調査を実施した高齢者群は、日本における在宅の要介護高齢者群の中でも、とくに要介護度が高い高齢者群が抽出されていたことが明らかにされた。

表 5-4 一次判定

	在宅タイムスタディ		モデル事業	
	N	%	N	%
非該当	0	0.0	1,241	4.5
経過的要介護	0	0.0	6,075	22.0
要支援1	10	4.5	0	0.0
要支援2	5	2.2	0	0.0
要介護1	57	25.4	12,569	45.5
要介護2	44	19.6	3,567	12.9
要介護3	27	12.1	1,965	7.1
要介護4	34	15.2	1,402	5.1
要介護5	47	21.0	786	2.8
合計	224	100.0	27,605	100.0

#### (2) 二次判定の分布

二次判定では、モデル事業の高齢者群では要支援2が23.3%、要支援1が19.8%と要支援高齢者が全体の4割以上を占めていた。

しかし、在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群における要支援高齢者は、要支援2が4.9%、要支援1が3.4%と1割にも満たなかった。在宅タイムスタディ調査の対象となった高齢者群においては、要介護5が17.2%、また要介護4が17.6%であり、今回のタイムスタディ調査の対象は、要介護度が高い集団であることがわかった。

表 5-5 二次判定

	在宅タイムスタディ		モデル事業	
	N	%	N	%
非該当	0	0.0	354	1.4
要支援1	16	3.4	5,177	19.8
要支援2	23	4.9	6,100	23.3
要介護1	84	17.8	5,711	21.8
要介護2	92	19.5	4,109	15.7
要介護3	92	19.5	2,700	10.3
要介護4	83	17.6	1,390	5.3
要介護5	81	17.2	637	2.4
取消	0	0.0	8	0.0
合計	471	100.0	26,186	100.0

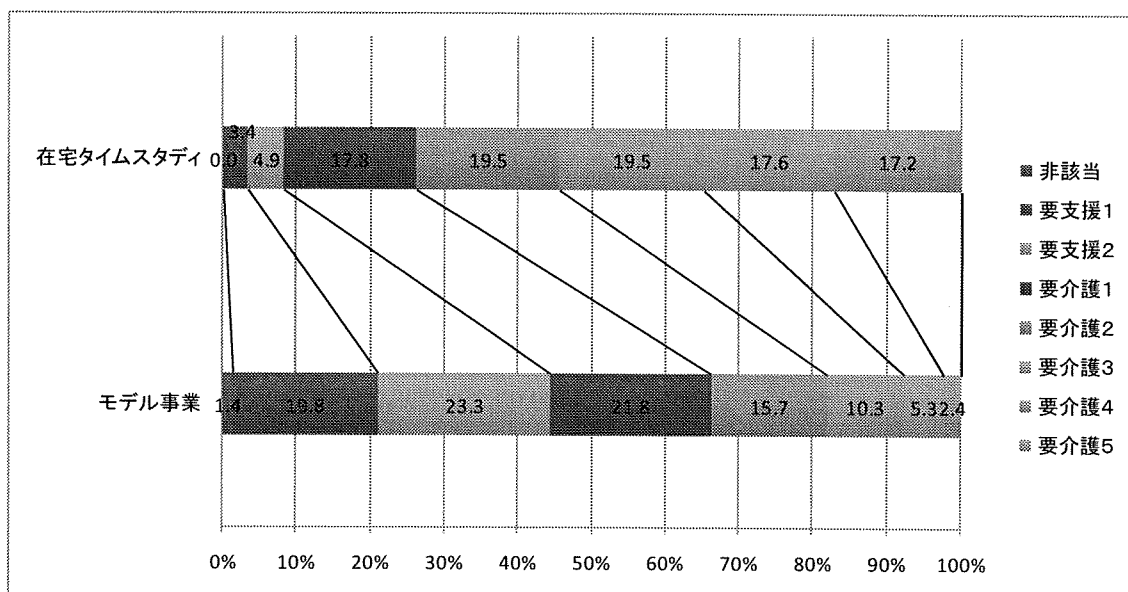


図 5-1 要介護度の分布

### (3) 要介護度の変動について

一次判定から、二次判定にかけての要介護度変動については、以下の表 5-6 のようになった。在宅タイムスタディの高齢者群は、「変動なし」が 83.6% を占めており、ほとんどが変動しないという状況であった。モデル事業の群でも、「変動なし」が 48.5% で一番多かったが、その割合は、在宅タイムスタディ調査の群よりも低かった。次いで、「1 段階の下降」が 30.1%、続いて、1 段階上昇が 12.8% であった。

以上のように、在宅タイムスタディの高齢者群においては、一般の要介護高齢者群にお

いては、ほとんどが認定の変更はなかったことがわかった。

表 5-6 1次判定から2次判定での要介護度の変動

	在宅タイムスタディ		モデル事業	
	N	%	N	%
2段階以上上昇	3	1.5	268	1.4
1段階上昇	22	11.3	2,472	12.8
変動なし	163	83.6	9,384	48.5
1段階下降	7	3.6	5,818	30.1
2段階以上下降	0	0.0	1,320	6.8
非該当に変更	0	0.0	71	0.4
合計	195	100.0	19,333	100.0

表 5-7 在宅タイムスタディの要介護度の変動（上位20）

	変動	N	%
1	要介護1→要介護1	42	20.2
2	要介護5→要介護5	42	20.2
3	要介護2→要介護2	31	14.9
4	要介護4→要介護4	27	13.0
5	要介護3→要介護3	21	10.1
6	要介護1→要介護2	11	5.3
7	要介護2→要介護3	6	2.9
8	要支援2→要支援2	4	1.9
9	要支援1→要支援1	3	1.4
10	要介護1→要介護3	3	1.4
11	要介護3→要介護4	3	1.4
12	要介護1→要支援2	2	1.0
13	要介護2→要介護1	2	1.0
14	要介護2→要介護4	2	1.0
15	要介護4→要介護5	2	1.0
16	要介護5→要介護4	2	1.0
17	要支援1→要支援2	1	0.5
18	要支援1→要介護1	1	0.5
19	要支援2→要介護1	1	0.5
20	要介護1→要介護3	1	0.5



表 5-8 モデル事業における要介護度の変動（上位 20）

	変動	N	%
1	要介護1→要支援2	4,900	18.7
2	要介護1→要介護1	4,144	15.8
3	経過的要介護→要支援1	3,450	13.2
4	要介護2→要介護2	2,295	8.8
5	要介護1→要介護2	1,478	5.6
6	要介護3→要介護3	1,460	5.6
7	要介護1→要支援1	1,151	4.4
8	経過的要介護→要介護1	1,113	4.3
9	経過的要介護→要支援2	984	3.8
10	要介護4→要介護4	944	3.6
11	要介護2→要介護3	693	2.6
12	非該当→要支援1	571	2.2
13	要介護5→要介護5	541	2.1
14	要介護4→要介護3	307	1.2
15	非該当→非該当	283	1.1
16	要介護3→要介護2	233	0.9
17	非該当→要介護1	218	0.8
18	要介護1→要介護3	213	0.8
19	要介護3→要介護4	207	0.8
20	要介護3→要介護2	191	0.7

#### (4) 男女別要介護度

男女別の要介護度の分布においては、在宅タイムスタディの対象となった高齢者群は、以下の表 5-9 のようになった。在宅タイムスタディの高齢者群においては、男女間の要介護について有意差は見られなかったが、モデル事業においては、有意な差がみられた。

表 5-9 男女別要介護度の記述

		N	最小値	最大値	平均値	標準偏差	P 値
在宅タイムスタディ	男性	171	3	9	6.7	1.6	
	女性	295	3	9	6.7	1.6	
モデル事業	男性	8268	1	9	5.2	1.7	**
	女性	17910	1	9	4.8	1.6	

表 5-10 男女別要介護度の分布

		在宅タイムスタディ		モデル事業	
		N	%	N	%
男性	非該当	0	0.0	115	1.4
	要支援1	6	3.5	1375	16.6
	要支援2	10	5.8	1611	19.5
	要介護1	26	15.2	1786	21.6
	要介護2	34	19.9	1538	18.6
	要介護3	35	20.5	1041	12.6
	要介護4	30	17.5	561	6.8
	要介護5	30	17.5	241	2.9
	取消	0	0.0	4	0.0
	合計	171	100.0	8272	100.0
女性	非該当	0	0.0	239	1.3
	要支援1	9	3.1	3802	21.2
	要支援2	13	4.4	4489	25.1
	要介護1	58	19.7	3925	21.9
	要介護2	57	19.3	2571	14.4
	要介護3	56	19.0	1659	9.3
	要介護4	51	17.3	829	4.6
	要介護5	51	17.3	396	2.2
	取消	0	0.0	4	0.0
	合計	295	100.0	17914	100.0

#### (5) 年齢階層別要介護度

年齢階層別の要介護度の分布においては、在宅タイムスタディの対象となった高齢者群は、いずれの年齢階層においても要支援1、2および要介護1は少なく、比較的要介護度が高い傾向が示された。

一方、モデル事業の高齢者群では、年齢階層が高くなるほど、要介護4、5が高くなる傾向がみられた。

表 5-11 年齢階層別要介護度の分布

		在宅タイムスタディ		モデル事業	
		N	%	N	%
40～64 歳	非該当	0	0.0	11	3.1
	要支援1	0	0.0	92	1.8
	要支援2	2	9.5	219	3.6
	要介護1	3	3.6	164	2.9
	要介護2	2	2.2	185	4.5
	要介護3	5	5.5	130	4.8
	要介護4	4	4.9	65	4.7
	要介護5	10	13.3	33	5.2
	合計	26	5.7	899	3.4
65～69 歳	非該当	0	0.0	29	8.2
	要支援1	0	0.0	246	4.8
	要支援2	0	0.0	340	5.6
	要介護1	2	2.4	254	4.4
	要介護2	6	6.6	234	5.7
	要介護3	5	5.5	127	4.7
	要介護4	4	4.9	88	6.3
	要介護5	7	9.3	20	3.1
	取消	0	0.0	0	0.0
	合計	24	5.2	1,338	5.1
	70～74 歳	非該当	0	0.0	72
要支援1		1	6.7	623	12.0
要支援2		2	9.5	691	11.3
要介護1		5	6.0	536	9.4
要介護2		11	12.1	431	10.5
要介護3		10	11.0	255	9.4
要介護4		8	9.9	132	9.5
要介護5		5	6.7	72	11.3
取消		0	0.0	2	25.0
合計		42	9.2	2,814	10.7
75～79 歳		非該当	0	0.0	94
	要支援1	6	40.0	1,296	25.0
	要支援2	4	19.0	1,265	20.7

	要介護1	14	16.7	1,110	19.4
	要介護2	20	22.0	701	17.1
	要介護3	15	16.5	463	17.1
	要介護4	12	14.8	235	16.9
	要介護5	15	20.0	120	18.8
	取消	0	0.0	2	25.0
	合計	86	18.8	5,286	20.2
80～84 歳	非該当	0	0.0	100	28.2
	要支援1	2	13.3	1,644	31.8
	要支援2	8	38.1	1,728	28.3
	要介護1	20	23.8	1,578	27.6
	要介護2	20	22.0	994	24.2
	要介護3	20	22.0	630	23.3
	要介護4	15	18.5	283	20.4
	要介護5	9	12.0	110	17.3
	取消	0	0.0	2	25.0
	合計	94	20.5	7,069	27.0
	85～90 歳	非該当	0	0.0	40
要支援1		4	26.7	923	17.8
要支援2		5	23.8	1,270	20.8
要介護1		19	22.6	1,351	23.7
要介護2		12	13.2	862	21.0
要介護3		17	18.7	591	21.9
要介護4		15	18.5	281	20.2
要介護5		8	10.7	138	21.7
取消		0	0.0	1	12.5
合計		80	17.5	5,457	20.8
90 歳～		非該当	0	0.0	8
	要支援1	2	13.3	353	6.8
	要支援2	0	0.0	587	9.6
	要介護1	21	25.0	718	12.6
	要介護2	20	22.0	702	17.1
	要介護3	19	20.9	504	18.7
	要介護4	23	28.4	306	22.0
	要介護5	21	28.0	144	22.6